

平成25年6月6日
 西日本高速道路株式会社

平成25年3月期 決算概要

連結決算概要(経営成績)について

(単位:億円)

区 分	H25/3 期 (A)	H24/3 期 (B)	前期比		
			(A)-(B)	$\frac{(A)-(B)}{(B)}$ %	
営業収益	高速道路事業	6,723	6,696	26	0.4
	料金収入	5,853	5,680	172	3.0
	道路資産完成高	836	993	▲ 157	▲ 15.9
	その他	33	22	11	49.5
	関連事業	607	527	80	15.2
	SA・PA事業 ^{※2}	346	345	0	0.3
	その他の事業 ^{※3}	260	181	79	43.5
	7,330	7,224	106	1.5	
営業費用	高速道路事業	6,704	6,681	23	0.4
	道路資産賃借料	4,092	3,960	131	3.3
	管理費用	1,776	1,726	49	2.9
	道路資産完成原価	836	993	▲ 157	▲ 15.9
	関連事業	565	478	86	18.2
	SA・PA事業 ^{※2}	284	280	4	1.4
	その他の事業 ^{※3}	280	197	82	42.0
	7,270	7,159	110	1.5	
営業利益	高速道路事業	18	15	2	15.4
	関連事業	41	48	▲ 6	▲ 14.3
	60	64	▲ 4	▲ 7.0	
経常利益	85	85	0	0.1	
当期純利益	64	28	36	128.6	

※1 当社グループは、当社及び連結子会社 26 社、持分法適用の関連会社等 7 社で構成されており、高速道路事業、SA・PA事業、その他の事業を行っております。

※2 高速道路のサービスエリア(SA)・パーキングエリア(PA)で行う飲食・物販等の事業をいいます。

※3 受託事業、コンサルティング事業、収益還元事業等の事業をいいます。

高速道路事業トピックス

- 当社管内の高速道路の通行台数は、平成23年6月まで高速道路無料化社会実験や休日特別割引(上限料金制(休日1,000円))が実施されていた影響などにより、前期比0.7%減の270万台/日となりました。
- 営業収益のうち、高速道路料金収入は、上記の休日特別割引(上限料金制(休日1,000円))の終了に伴う割引額の減少などにより、前期比172億円増の5,853億円となりました。
- 一方、営業費用のうち、独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構(以下、「機構」といいます。)に対する道路資産賃借料は、料金収入の増加に伴い、前期比で131億円増の4,092億円となりました。
- また、管理費用については、トンネル内付属物緊急点検の実施や舗装補修工事の推進などにより、前期比49億円増の1,776億円となりました。
- 以上のことなどから、当期における高速道路事業の営業利益は、前期比2億円増の18億円となりました。
- 当期の道路資産完成高¹は、東九州自動車道(都農^{つの}インターチェンジ~高鍋^{たかなへ}インターチェンジ)の完成などがありました。前期と比べ新規開通箇所が少なかったことから、前期比157億円減の836億円となりました。

1 道路建設にかかった経費と同額の負債を機構に引き渡すため、道路資産完成高は道路資産完成原価と同額となり、道路建設から利益は発生しません。

関連事業トピックス

- S A ・ P A 事業の業績は、営業収益はほぼ前期並みであったのに対し、店舗改良に伴う修繕経費の増加などの理由により営業費用が増加したため、営業利益は前期比 3 億円減の 6 1 億円となりました。
- 関連事業全体の営業収益は、受託事業の収益が増加したことなどから、前期比 8 0 億円増の 6 0 7 億円となりました。
また、営業利益は、上記の S A ・ P A 事業の減益に加え、道路維持管理子会社のグループ外取引に係る利益の減少などにより、前期比 6 億円減の 4 1 億円となりました。

全事業の業績について

- 以上の結果、営業収益（売上高）は、高速道路事業が 2 6 億円の増収、関連事業が 8 0 億円の増収となり、全事業では前期比 1 0 6 億円増の 7 , 3 3 0 億円となりました。
- 利益面では、高速道路事業営業利益は 2 億円の増益となったものの、関連事業営業利益は 6 億円の減益となり、全事業の営業利益は前期比 4 億円減の 6 0 億円、経常利益はほぼ前期並の 8 5 億円となりました。

【参考】個別決算概要(経営成績)について

(単位:億円)

区 分		H25/3 期 (A)	H24/3 期 (B)	前期比	
				(A)-(B)	$\frac{(A)-(B)}{(B)}$ %
営業収益	高速道路事業	6,702	6,679	22	0.3
	料金収入	5,854	5,681	172	3.0
	道路資産完成高	836	993	▲ 157	▲ 15.9
	その他	11	4	6	159.7
	関連事業	284	236	48	20.6
	SA・PA事業※ ¹	103	103	0	0.6
	その他の事業※ ²	180	132	47	36.1
		6,986	6,915	70	1.0
営業費用	高速道路事業	6,696	6,680	15	0.2
	道路資産賃借料	4,092	3,960	131	3.3
	管理費用	1,767	1,726	41	2.4
	道路資産完成原価	836	993	▲ 157	▲ 15.9
	関連事業	266	219	47	21.7
	SA・PA事業※ ¹	65	62	3	4.9
	その他の事業※ ²	201	156	44	28.5
		6,963	6,899	63	0.9
営業利益	高速道路事業	5	▲0	6	-
	関連事業	17	16	0	5.1
		23	16	7	43.0
経常利益		91	37	53	143.5
当期純利益		60	9	50	532.2

※1 高速道路のサービスエリア(SA)・パーキングエリア(PA)で行う飲食・物販等の事業をいいます。

※2 受託事業、コンサルティング事業、収益還元事業等の事業をいいます。

平成25年3月期 連結貸借対照表

(単位:億円)

	H25/3 末	H24/3 末	増減額	主な増減説明								
連結資産	8,799	7,322	1,476	<ul style="list-style-type: none"> ・現預金等の増 174 ・仕掛道路資産の増 1,101 <ul style="list-style-type: none"> 〔 建設投資 1,937 〔 完成道路資産の引渡し ▲836 〕 ・設備投資 234 ・減価償却費 ▲218 								
連結負債	7,143	5,709	1,434	<ul style="list-style-type: none"> ・仕掛道路資産に係る未払金の増 180 ・道路資産賃借料に係る未払金等の増 138 ・道路建設関係有利子負債の増 997 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">期首</th> <th style="width: 25%;">調達</th> <th style="width: 25%;">機構引渡</th> <th style="width: 25%;">期末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">3,506</td> <td style="text-align: center;">1,850</td> <td style="text-align: center;">▲852</td> <td style="text-align: center;">4,504</td> </tr> </tbody> </table>	期首	調達	機構引渡	期末	3,506	1,850	▲852	4,504
期首	調達	機構引渡	期末									
3,506	1,850	▲852	4,504									
連結純資産	1,655	1,613	42	<ul style="list-style-type: none"> ・当期純利益 64 								
自己資本比率	18.7%	21.6%	▲2.9%									

平成25年3月期 連結キャッシュフロー計算書

(単位:億円)

	H25/3期	H24/3期	増減額	主な増減説明
営業CF	▲592	171	▲763	
(道路建設投資)	(▲946)	(▲315)	(▲631)	・仕掛道路資産に係る支出の増 ▲491 ・仕掛道路資産に係る未払金の増 159 ・完成道路資産の引渡し額の減 ▲157 ・道路完成高未収入金の増 ▲140
(その他)	(353)	(486)	(▲132)	・税金等調整前当期純利益の増 35 ・無料化社会実験補填金未収入金 ▲148
投資CF	▲218	▲137	▲81	・設備投資に係る支出の増 ▲36 ・設備投資に係る未払金の減等 ▲44
財務CF	985	293	691	・新規社債・借入による資金調達の増 390 ・社債・借入金の機構引渡しの減 308
現金及び現金同等物の 期首残高	927	600	326	
現金及び現金同等物の 増減額	174	326	▲152	
現金及び現金同等物の 期末残高	1,102	927	174	

【道路会社のキャッシュフロー計算書】

- ・高速道路への建設投資は、道路会社にとって機構に対する「商品」のため、投資額は『営業活動CF』のマイナスに整理し、これに見合う資金は社債・借入金により調達するため『財務活動CF』のプラスとしています。
- ・高速道路が開通し、道路資産及び社債・借入金を機構に引き渡す際に、道路資産完成高を『営業活動CF』のプラス、社債・借入金の引渡額を『財務活動CF』のマイナスとしています。
- ・従って、高速道路への投資額が道路資産完成高を上回る決算期において、『営業活動CF』がマイナスとなる場合があります。

平成26年3月期 業績予想

(単位: 億円)

区 分		連結			個別
		H26/3 期 予想 (A)	H25/3 期 実績 (B)	前期比 (A)-(B)	H26/3 期 予想
営業収益	高速道路事業	8,128	6,723	1,405	8,128
	うち料金収入	5,611	5,853	▲ 242	5,611
	うち道路資産完成高	2,517	836	1,681	2,517
	関連事業	564	607	▲ 42	237
	うちSA・PA事業	347	346	1	104
	計	8,692	7,330	1,362	8,366
営業利益	高速道路事業	▲ 26	18	▲ 45	▲ 26
	関連事業	35	41	▲ 6	10
	計	8	60	▲ 51	▲ 16
経常利益		11	85	▲ 74	▲ 19
当期純利益		7	64	▲ 57	▲ 19

- ・高速道路料金収入は、前期比242億円減の5,611億円を見込んでいます。
- ・道路資産完成高は、開通済みの京都縦貫自動車道沓掛IC～大山崎JCTの9.8kmのほか、東九州自動車道^{かんだきたきゅうしゅうこうこう}苅田北九州空港IC～行橋ICの8.6kmの新規開通などを予定しており、完成する事業が前期より増加することから、前期比1,681億円増の2,517億円を見込んでいます。
- ・高速道路事業の営業利益は、前期比45億円減の26億円の赤字を見込んでいます。その主な理由は、高速道路事業に係る利益剰余金を活用して機構に帰属する道路資産を形成し、債務の引渡しを行わない事業を行うため、道路資産完成原価を道路資産完成高より多く見込んでいることによります。
- ・関連事業の営業収益は、主に受託事業の減少により、前期比42億円減の564億円を見込んでいます。
- ・関連事業の営業利益は、SA・PA店舗改修に伴う費用の増加などを見込んだため、前期比6億円減の35億円を見込んでいます。